

プロムナードの仄かな奇跡

宗近 忠 神奈川県横浜市 六十一歳

『近隣の皆様へ この木は枯れたので近日中に伐採します区・公園管理事務所』

新聞半分ほどの張り紙が、普段通る遊歩道の一本の立派な街路樹の幹に付けられていました。

春真っ盛り、この木だけが葉を殆ど落とし既に命無く枯れているように見えました。

大木が伐採される怖いもの見たさの期待が心の底に蠢くのを感じ始めた時です、張り紙の形が変わりました。

『切らないでまだ生きています木さんガンバレ！』子供の字で書かれた画用紙が貼り付けてありました。

確かに一番下の枝から数枚の若葉が出ていました。数日のうちに『枯れていません 伐採しないで下さい』『生きています 伐らないで』近

隣の人達の思いが籠められた紙が次々に貼り付けられました。

張り紙の形が変わっていくに連れて若葉の数が増えていくようにも見えました。

人々がたった一本の木の行く末を案じていたのです。しかし、行政が決めた以上伐採されてしまうと遣る瀬無い気持ちがかみ上げてきました。

そんな初夏の晴れた日、張り紙が最初の形に戻っていました。

『近隣の皆様へ 回復が望めそうなので伐採しないで暫く様子を見ます 区・公園管理事務所』

黄緑色の若葉が増え木は確実に息を吹き返していました。

多くの人の思いが木の途絶えそうな命を蘇らせたのだと思わずにはいられません。

今では枯枝の殆どから黄緑色の若葉が出て太陽の日差しを受けて木全体がキラキラ輝いています。